

ひろ

3

2014年 No.333
平成 26年 3月



- 平成25年度新規就農者激励会…………… 2
- 南十勝農業後継者担い手対策研修会開催される
- JAひろお女性部すみれ会第33回定期総会… 3
- JAひろお女性部第61回通常総会
- 広尾線地区農協青年部スポーツ交流会開催される… 4
- 広尾線3 JA青年部スポーツ交流会開催される… 4
- 乳牛改良同志会視察研修…………… 5
- 融雪時期の家畜ふん尿の処理及び管理について
- 酪友会役員研修会…………… 6
- JAホクレンニューイヤーマーターション
- とかち開催される

- 広尾町鳥獣被害防止対策協議会エゾシカ一斉駆除… 7
- 賑やかに春節行われる
- 高品質てん菜づくり講習会開催される… 8
- 自動車共済事故処理センター変更のお知らせ
- 理事会…………… 9～10
- 表紙インタビュー・占い…………… 11
- てん蔵について…………… 12
- JAバツク教育ローン…………… 13
- 背表紙 (JAライカーローン)…………… 14

新規就農者激励会



2月21日、広尾町農業担い手育成センター主催による「平成25年度新規就農者激励会」が町内の「ホテル東陽館」で行われました。

本年度新たに就農したのは、重泉有生・真弓ご夫妻（中豊似農事組合）、角倉輝さん、斉藤友紀さん、目黒大地さん（以上、東豊似農事組合）、鯖江智幸さん（新生農事組合）の5組で、激励会では就農された方々の経歴紹介に続き、村瀬町長、岡田農業委員会会長代理、萬亀山組合長から「農業後継者として目標を持ち、楽しんで農業を行っていたいただきたい。」との激励の言葉があり、就農された方々からは「解らないことばかりなので一つ一つ学んで早く一人前になれるよう頑張ります。」と決意が述べられました。

その後の昼食会では、それぞれの夢や仕事内容などが語られ短い時間の懇談ではありましたが本年度の激励会が終了しました。

南十勝農業後継者担い手対策研修会開催される

2月13日、広尾・大樹・幕別・更別・中札内の5町村による南十勝農業後継者担い手対策研修会が、幕別町忠類ふれあいセンター福寿にて行われました。

幕別町長 岡田和夫氏の歓迎の挨拶の後、講師にJAふらのあぐりパートナー相談員 荒木義昭氏を迎え、「地域を支える配偶者対策」のテーマのもと講演会が行われ、平成16年2月のアグリパートナー対策本部の設立に係わる経過や平成18年2月に専属結婚相談員3名を配置したこと、平成22年4月に設置された縁結びニストの説明がありました。

平成25年度南十勝農業後継者担い手対策研修



ボーイズ代表 野坂哲章氏より「平成25年度の新たな取り組みについて」の事例発表があり、最後に幕別町農業振興公社理事長 高橋平明氏の閉会の挨拶で研修会が終了しました。

JAひろお女性部

すみれ会 第33回 定期総会



1月22日、広尾町農村環境改善センターにおいて、JAひろお女性部すみれ会の第33回定期総会が行われました。

今井会長の開催挨拶の後、JAひろお女性部古関部長より祝辞を頂きました。議事に入り、平成25年度の事業報告・収支決算報告があり、平成26年度事業計画では、活発に意見が出されました。

総会終了後は新年会に移り、自家製の漬物や手作りのお惣菜を沢山持ち寄りビンゴゲーム・趣向を凝らした輪投げなどをして、楽しい一日を過ごしました。

JAひろお女性部

第61回 通常総会



2月7日、広尾町農村環境改善センターにおいて、JAひろお女性部第61回通常総会が行われました。

古関部長の挨拶の後、来賓の萬亀山組合長、村瀬町長、十勝農業改良普及センター十勝南部支所 松本地域係長より祝辞を賜りました。

議長に浜野三枝子さんを選出し議事に入り、平成25年度事業報告・収支決算報告があり、平成26年度事業計画では活発に意見や提案が出されました。最後にJA女性の歌を全員で合唱し、通常総会を終了しました。

女性部では部員皆さんに楽しんでもらえる行事を企画しますので、多くの参加をお待ちしております。

スポーツ交流会開催される

1月15日、平成25年度広尾線地区農協青年部スポーツ交流会が、広尾線7JA青年部より45名の盟友が参加し、帯広スズランポウルにて開催されました。開会にあたり、JAさらべつ青年部部長 渡部浩明氏による開会挨拶があり、続いて来賓の十勝地区農協青年部協議会副会長 原口直之氏よりご祝辞をいただき、JA中札内村青年部の片山和哉氏の選手宣誓の後、十勝地区農協青年部協議会副会長 原口直之氏による始球式が行われ、各単組対抗のポウリング



大会が行われました。結果は各単組の実力が拮抗する中、JA帯広大正青年部が優勝し、当JA青年部は4位という結果となりました。その後、懇親会が行われ、参加した部員たちは各単組の盟友と交流をし有意義な時間を過ごしていました。



スポーツ交流会開催される

1月23日、忠類体育館において、忠類・大樹・広尾農協青年部による、広尾線3JA青年部合同スポーツ交流会が開催されました。各農協青年部より合計23名の部員が参加し、JA忠類青年部 大坂崇士部長の開会挨拶の後、各単組でチームとなりミニバレー



大会が行われました。当JA青年部は、3位に入賞することが出来ました。ミニバレーの後、忠類のみ食堂で懇親会が行われ、食事をしながら今後の活動や、取り組みについて情報交換をし、親睦を深めました。

乳牛改良同志会視察研修

1月29日～30日、広尾町乳牛改良同志会による視察研修が、北見市の南上野牧場と吉野英之牧場、帯広大正の野原幸治牧場で行われました。

南上野牧場では、フリーストールで経産牛140頭を飼養しており、乾乳舎と分娩房を一つにして、分娩房のスペースを広く確保していました。また、フリーストールとパーラーが一つの建物で、移動や作業効率を考えた作りと

なっていました。育成舎にはストールがあり、育成段階からストールやベッドに慣れるよう工夫がされていて、寒さ対策として、カウジャケットではなくネックウォーマーが使用されていました。

吉野牧場では、繋ぎ牛舎による飼養方法が取り入れられており、キャリロボや自動給餌機が設置され、自動給餌機については使用を開始して4年になり、給餌回数や量がようやく牧場に合った形になりつつあるという説明がありました。

野原牧場では、平成25年12月21日から新しい86頭の繋ぎ牛舎に入れ替え、預託牛を合わせ現在は78頭の経産牛を飼養していました。

この牛舎には最新の設備が備わっており、特にエアーカーテンは他に設置している牧場は少なく、センサーにより舎内温度が一定に保たれるよう管理されていました。また、産次数の違いによる経産牛の大きさを考え、左が195cm、右が185cmとベッドサイズを変える工夫がされていました。今回視察させていただいた時点では新しい

牛舎に移動してから1ヶ月程度だったこともあり、牛があまり環境に慣れていないのではと心配していたそうですが、人より牛の方が先に新しい環境に順応していると驚いていました。今回視察させていただいた牧場は、どの牧場も牛群の状態や施設面でもすばらしく、牛舎内は清潔に保たれており、参加した会員はそれぞれの牧場で、飼養管理方法や牛群改良の方法等について積極的に質問や意見交換を行い学習し、今後の経営改善や牛群改良に活かすことのできる良い視察研修となりました。



融雪時期の家畜ふん尿の処理及び管理について

家畜排せつ物法の施行により家畜排せつ物の適正管理が義務化され、組合員の皆様におかれましては日頃より家畜ふん尿について適正管理に努められていることと思います。

春先は雪解け水と一緒に河川や道路側溝などに家畜ふん尿が流出する危険性が高くなります。

家畜ふん尿の処理及び管理について、今一度、管理状況をご確認の上、引き続き適正管理に努めていただきますようお願い申し上げます。

酪友会役員研修会

12月19日、雪印メグミルク株大樹工場にて、酪友会役員会が開催され、雪印メグミルク株、広尾町農業協同組合、広尾町、農業改良普及センター、酪農家ら25名が参加しました。

岡田精一会長の挨拶のあと、雪印メグミルク株から同社の本年度の経営状況や、主な取組内容、今後の取組方針等について説明がありました。

雪印メグミルクグループでの営業成績として、特にヨーグルトの生産が前年比10%の伸び率を示し、乳飲料・ナチュラルチーズともに1%の伸びを示しています。しかしながら原材料価格の高騰、円安の進行等により利益率は減少し、販売量を上げる戦略を執りながら、主要工場の新設と統合を行い、物流での効率化を図ってきました。

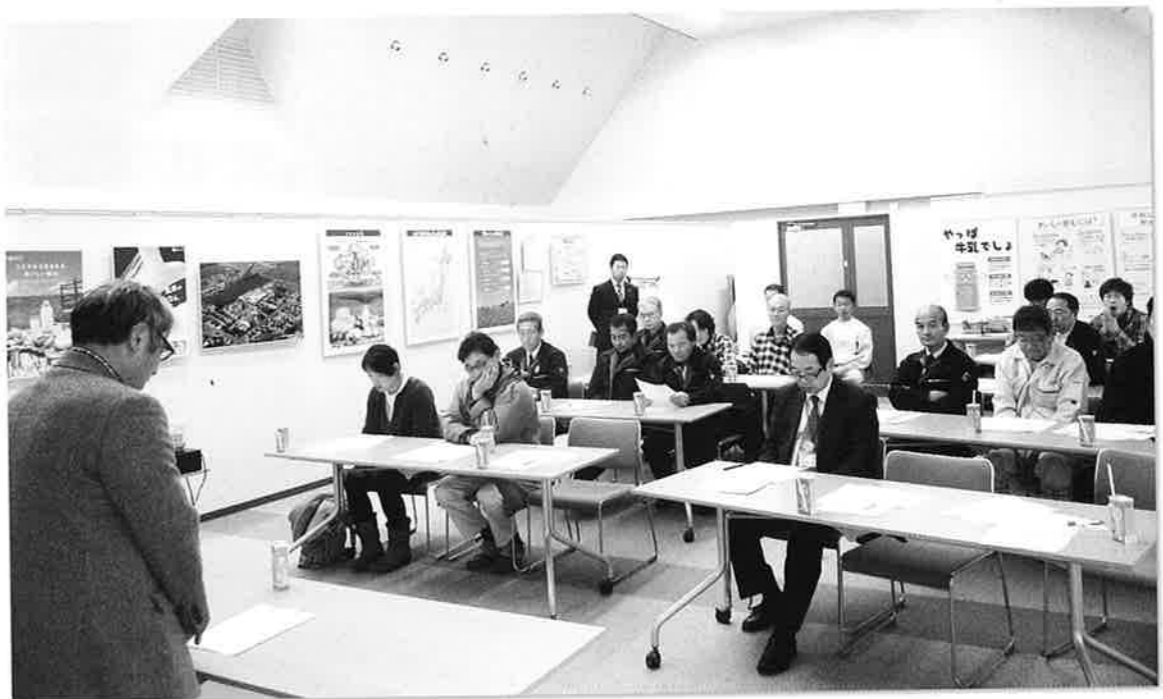
最近の酪農概況について報告があり、生乳生産動向は4月〜10月までの生産が、都府県では対前年比98・2%と減少、北海道でも98・5%で前年を大きく下回っています。支所別では十勝だけが前年乳量を上回っており、本町も前年を上回って推移しています。乳製品動向では生乳生産動向と連動

し、現状の生乳生産状況が続くと脱脂粉乳、バターともに不足することが懸念されています。市乳販売は堅調に推移し、加工向けが不足している状況であり、ごんどん生産してほしいと述べていました。

併せて行われた飼料価格情勢の研修では、雪印種苗株からは飼料価格の高止まりの要因と、今後の見通しについて報告され、酪農情勢について意見交換が行われました。

その後、新設された工場を含む大樹工場の見学が行われ、カマンベールチーズ、さけるチーズ、ゴータチーズの製造過程を視察し、近代的な

生産ラインに多くの製品チェック機能を取り入れ、食品の安全・安心に取り組まれている様子がうかがえました。



JAホクレンニューイヤーモーターショーinとかち 開催される

1月25日〜26日、ニューイヤーモーターショーinとかちが音更町アグリアリーナで開催され、各メーカーより話題の新車が勢揃いし、野外には優良中古車180台が集結しました。

当日は天候にも恵まれ、来場者は家族連れが多く、人気車の周りにはたくさんの方が集まり、販売員と購入の相談や契約を行っていました。



広尾町鳥獣被害防止対策協議会

エゾシカ一斉駆除

2月23日、広尾町鳥獣被害防止対策協議会によるエゾシカ一斉駆除が広尾町猟友会の協力により行われました。

はじめに、道端広尾町農林課長より

「本年におけるエゾシカによる農業被害は変わらず増大しているため、皆様の協力により1頭でも多く駆除していただきたい。」また、田中巧猟友会会長からは「事故のないように十分留意してください。」との挨拶があり、事前に決められた班体制により一斉駆除が開始されました。

今回もエゾシカの生息頭数が多いことからピラオトリ林道奥にて実施し、駆除頭数は15頭となりました。



くくり罠の貸出や狩猟免許取得に係る費用の一部助成を行っておりますので、ご希望の方は広尾町農林課または農業振興課までお問い合わせ下さい。

賑やかに春節行われる

1月30日、J A 広尾外国人研修生受入農家連絡会（川崎和雄 会長）主催による中国のお正月にあたる「春節交流会」が賑やかにゆかりワサキファームの実習生宿舎で行われました。

この「春節」は旧暦のお正月で、中国ではもともと重要とされている祝日で新暦のお正月より盛大に祝いする日となっております。当日は受入農家の協力もあり朝早くから多くの技能実習生が集まりました。

夏季交流会以来の集まりであり、久しぶりに一同に会った技能実習生は、仕事のことやふるさとのことなどの会話も弾み、帰宅時間までおしゃべりを楽しんで過ごしていました。

昼食は、受入農家側で準備したジンギスカンのほか、特にお楽しみとして用意したラッ

プに包まれた500円硬貨入りのおにぎりを当てようと真剣に品定めを行い、周囲の笑いを誘っていました。

農業振興課では、外国人技能実習生と受入農家に対する支援を行っておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



RECIPE

根ミツバとアサリの酒蒸し

調理時間

15分

※アサリの砂抜き時間は除く



撮影：木井一範

材料 (2人分)

- 根ミツバ※.....1束 (250g)
 - アサリ (殻付き).....200g
 - 水.....カップ1 (200ml)
 - 塩.....小さじ1
 - 酒.....大さじ2
 - しょうゆ.....小さじ1/2
- ※糸ミツバ、切りミツバで作るときは、160g

作り方

(1人分 33kcal)

- アサリは塩水に漬けて2〜3時間置いて砂抜きをします。殻をこすり合わせてよく洗います。
- 根ミツバは根を切り落とし、4cm長さに切ります。
- フライパンにアサリを入れ、酒を振ってふたをし、強火にかけます。沸騰したら中火にし、3〜4分蒸し煮にします。
- アサリの殻が開いたら、ミツバを加えてざっと混ぜます。しょうゆを加えて、ひと混ぜし、火を止めます。

開催日時 平成25年12月18日 (水) 午前11時00分
 開催場所 広尾町農村環境改善センター 視聴覚研修室

第11回 理事会

● 議案

- 議案第1号 規程類の制定について
- 議案第2号 規程類の一部改正について
- 議案第3号 出資金の払い戻し及び減口について
- 議案第4号 理事者との利益相反取引契約について
- 議案第5号 各種資金の貸付について
- 議案第6号 平成25年度信用供与等の額の変更について
- 議案第7号 平成26年度営農年度組特組合員の営農計画について
- 議案第8号 災害時緊急電源供給切替盤設置助成要領の制定について
- 議案第9号 自動車共済事故処理に係る今後の取り組みについて

● 協議事項

- 1. 平成25年度農地保有合理化事業の申し込みについて

- 2. 平成26年度組特組合員の再編及び担当理事について
- 3. 平成25年度営農懇談会の意見・要望に対する回答について
- 4. (有)十勝ファーム施設の利用者選定について

● 報告事項

- 1. 内部監査の結果報告について
- 2. 11月末経営定期点検結果について
- 3. 平成25年度第3四半期余裕金運用状況について
- 4. 貸出条件緩和債権について
- 5. 組合員の加入・脱退について
- 6. 農地等の実査による評価結果の答申書について
- 7. 経営所得安定対策に係る数量払い仮渡金について
- 8. 生乳生産動向について
- 9. 石油類価格の改定について

高品質てん菜づくり講習会開催される

2月6日、池田町田園ホールにて、北海道てん菜協会主催の高品質てん菜づくり講習会が開催され、十勝の畑作農家や関係機関等が参加しました。「てん菜をめぐる事情」や「平成26年産畑作物作付指標面積」等について説明がありました。

北海道の平成25年産てん菜の作柄は、播種・定植期の降雨や低温等により特にオホーツク地域で作業が大幅に遅れたことや、7月中旬以降の干ばつにより生育が停滞した為、地域・圃場間の格差が大きく、9月以降の最低気温が平年より高く推移し集中的な降雨等から収量、糖分共に平年をやや下回りました。

てん菜のリン酸減肥指針について説明があり、リン酸減肥については従来から大幅な減肥が可能とされてきましたが、これまでの指導は低温年でも安全な施肥量を余裕をもって設定するとしてきました。しかし、近年の肥料価格の高騰による収益性が低下し作付面積の減少に繋がっています。この為あらためて試験を実施し、リン酸減肥可能性が検討されました。試験内容は、無リン酸区、リン酸半量区、リン酸標準区に分けて比較しました。試験結果は有効態リン酸が基準値(10~30mg/100g)以上の圃場であればリン酸を減らしても収量、糖分に影響せず、有効態リン酸が基準値以下の圃場では収量、糖分が低下しました。これらのことから土壌分析により成分状況を把握し、適正な施肥を行うことが重要であると説明がありました。

北海道のてん菜の作付面積は、平成16年の67,990haから10年連続減少し、平成25年は58,188haとなり、栽培戸数も平成17年までは1万戸台を維持してきましたが毎年減少し、平成25年は7,668戸となりました。これ以上作付が減少した場合には、産糖量の減少による交付対象数量の見直しや、輪作体系の崩壊等の大きな影響を及ぼします。基幹作物であるてん菜の面積減少に歯止めをかけ、てん菜作付面積の確保に向けてご協力をお願い致します。

育苗期間を確保し、早期播種に努めましょう！

播種は自分の畑で最も早く定植出来る時期から逆算して、**45~50日前**を開始日として下さい。

- ・「育苗期間の短い苗」は、春先の霜や風の影響を特に強く受けます。
- ・「早期定植」は、生産性向上の第一歩です。霜・風に強い苗を作りましょう。
- ・「丈夫な苗」は、特別な肥料や液肥では作れません。育苗日数が必要です。



自動車共済事故処理センター変更のお知らせ

本年3月1日より、自動車事故処理センターが「南十勝3JA自動車事故損害調査センター」から「十勝広域自動車事故処理センター」に変更となりました。

また担当は、佐伯岳都氏(JA幕別町所属)となりますので宜しくお願い致します。

尚、事故受付はこれまで同様、金融・共済課で行います。